

【奨励賞】

団体名	名護市グッジョブ連携協議会
活動の内容（概要）	<p>学校におけるキャリア教育の推進に当たり、原則1人の大人に子供1人が2時間ほど付いて働く大人を観察する「沖縄型ジョブシャドウイング」を実施しており、それは、事前学習、ジョブシャドウイング（約2時間）、事後学習の3つの柱から構成されている。</p> <p>この取組を支える専属コーディネーターは、子供たちを受け入れる企業を探し、学校側と企業の橋渡しを行うなどの準備を担い、相互に負担の少ないスムーズな実施ができるよう調整を図っている。</p> <p>また、中学校の職場体験受け入れてくれる企業の開拓等の支援を実施している。さらに、地域及び学校間の連携に向けた研究会の開催等、様々な課題に対して、横断的で継続的な取組ができるよう推進している。</p>

受賞理由

- ・市全体で参加校が多い取組となっており、地域としての課題を、市を挙げて解決に向かって取り組んでおり、キャリア教育を推進していることは大変すばらしい
- ・体験ではなく観察するというジョブシャドウイングは、斬新で面白い取組。
- ・学校側との連携を密にし、事前学習の内容の調整や企業人による講話等の講師選定などを調整し、高校、大学及び専門学校等との連携にむけて沖縄県及び名護市等の協力を得て、系統的なキャリア教育の適正なプログラムを推進している。
- ・今後は、市内の高等学校との連携があることによって更なる発展が望まれる。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

名護市教育委員会、沖縄県教育庁国頭教育事務所、公立大学法人 名桜大学

【行政】

名護市

【地域・社会】

NPO 法人 NDA、NPO 法人ワーカーズコープ名護支部、NPO 法人北部地域 IT まちづくり協働機構（HICO）

【産業界】

名護市商工会、名護市観光協会、名護青年会議所、沖縄県中小企業家同友会北部支部、

活動開始の経緯

沖縄県商工労働部雇用戦略スタッフ室が沖縄県全域で推進している「みんなでグッジョブ運動（沖縄地域雇用創出事業（就業意識改善促進事業）」の一つで「沖縄型ジョブシャドウイング」を地域主体実施した。

平成22年度に「沖縄型ジョブシャドウイングモデル事業」を円滑に実施し、接続可能な人材育成へとつないでいくため、「名護市ジョブシャドウイング協議会」が設置された。

平成 23 年度から 24 年度までは、「沖縄型産学官・地域連携グッジョブ事業」の一つとして「産学官・地域連携就業意識向上支援事業」によるジョブシャドウイング拠点地区の一つとして指定された。さらに、沖縄県の「みんなでグッジョブ運動（沖縄県産業・雇用拡大県民運動）」と連携した取組により、「名護市グッジョブ連携協議会」に名称を変更し事業を継続した。

平成 24 年度には「地域型就業意識向上支援事業」で新たに「名護市キャリア教育・地域プラットフォーム構築事業」を企画し、ジョブシャドウイング（平成 25 年度編入）や中学生職場体験の支援、実践型キャリア教育ケーススタディー、キャリア教育に関わる地域連携の研究会、ポートフォリオ（キャリアアルバム）実践等の事業を現在も推進している。

活動実績

1 ジョブシャドウイング

平成 22 年度：中学校 1 校（2 学年：198 人）

○受入れ団体・事業所数：133

平成 23 年度：小学校 6 校（213 人）・中学校 2 校（366 人）

○受入れ団体・事業所数：103

平成 24 年度：小学校 12 校（560 人）・中学校 3 校（361 人）

○受入れ団体・事業所数：102

平成 25 年度：小学校 12 校（551 人）・中学校 2 校（123 人）

○受入れ団体・事業所数：98

2 職場体験の支援

平成 25 年度（初年度実績）：中学校 8 校（2 年生：755 人）

○受入れ団体・事業所数：168

3 協議会の開催

3 回／年

4 地域連携の研究会

7 回開催（平成 24～25 年度）



平成 25 年度第 1 回協議会開催の様子

5 グッジョブ運動等の周知広報活動等

- ・名護市グッジョブ連携協議会のブログ開設
- ・コミュニティ放送（FM やんばる）への定期的出演（1/週）
- ・グッジョブ新聞発行・配布（名護市内）
- ・各種イベントへの出展
（やんばるの産業まつり、名桜祭（大学祭）、名護市教育の日、久辺テクノフェスタ等）

「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

本協議会の会員は、教育委員会、産業界、NPO などキャリア教育の充実・発展に寄与している各機関の代表者であり、ジョブシャドウイング実施に必要な企業の確保と、その後のフィードバックまで行っている。

また、協議会の会議や地域連携の研究会では、各機関の立場から小・中学校の連携や職場見学、職場体験、インターンシップとの関係性の整理などを議論し、小・中・高等学校そして大学まで含めた時間軸での名護市の独自性を発揮できるキャリア教育の方策を検討している。

「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

これまで、ジョブシャドウイング実施校を決定したり、年度内の中間報告で評価と課題の洗い出しを行ったり、運営面で全体としての方向性が協議会の中で議論されたり、それぞれの必要性を重要視している。

平成 22 年度に発足した協議会は沖縄県の支援を得て、平成 24 年度から 3 年間、ジョブシャドウイングを含め平成 26 年度まで協議会及び専属コーディネーターが配置される。

平成 27 年度以降はジョブシャドウイングだけでなく、現在、中学校で行われている職場体験の企業の開拓や、高校でのインターンシップなど、トータルでコーディネートできるシステムを推進中である。このことから、本協議会の継続運営については学校と企業側を結ぶコーディネーターの役割等、事務局的な動きのできる中間組織の設置を目指し、沖縄県を含め名護市及び教育委員会で主体的に模索している。

「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

ジョブシャドウイングについては、実施希望の学校の募集状況や学校の希望日など、学校の要望に添って実施しており、その評価とともに継続的な実施意向が高まっている。

また、事前学習の内容の調整や企業人による講話等の講師選定など、学校側とのコミュニケーションを密にして運営している。

さらに、高校、大学及び専門学校等との連携にむけて沖縄県及び名護市等の協力を得て、体系的なキャリア教育の適正なプログラムを現場の担当者等を含め調整している。

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

これまで大きな負担となっていたプログラム内容について、学校及び先生（キャリア担当者）を支援することで、キャリア教育における児童・生徒への取組を更に充実させることが期待できる。

そのため、コーディネーターの身分保障を含め、学校側と企業側の間に立つ機関の確立を図るため、学校規模に応じた展開や、小学校及び中学校あるいは高等教育機関での職業教育の在り方について、地域性のある柔軟で機動力のあるシステムの必要性を感じており、学校現場及び企業側にヒアリングを重ねている。特に、名護市は若年層の未就業率が全国有数という課題を抱えており、既卒者への就労支援も企業側と連携しながら取り組んでいくニーズがある。

学校現場の評価・感想・コメント

- キャリア教育の強化を進めるに当たり、具体的に何をするか各学校内で検討していたところにジョブシャドウイング実施の提案があり、学校現場だけでは実現できない規模でいろいろな職場に子供たちを送ることができてよかった。
- これだけの企業数を確保することは学校だけでは無理で、コーディネーターのおかげで本来の子供たちへの時間が確保できた。
- 送迎面での不安もあったが、保護者や多くの関係者の協力で全員が実施できたことがよかった。



ジョブシャドウイング当日の出発式にて、気合の掛け声「みんなでグッジョブ！」(送迎保護者等の支援者を含む)

直接連携・協働していない関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

- 2時間程度の観察で教育的な効果に疑問があったが、事後発表に招待されてまとめられた壁新聞をみるとよくまとめられており、感心した。
- 地域の子供は地域で育てるという視点から、できる範囲でこの取組に協力していきたい。